

むしのツゴウ ニンゲンのツゴウ

エイゾウ



はじめに

このチヨシヨはキホンテキにイチワごとのよみきりである。だから、どこからよむこともカノウだが、やっぱりジケイレツでいきているわけだから、ジケイレツによるチクセキなどがないとはいえない（そのため「キホンテキに」といった）。したがって、そういったジケイレツによるヘンカをもあじわいたいとおもうのであれば、はじめからよむことをおすすめする。

また、ゼンチヨ『アルクカラカンガエル』でロンじたことのシンテンやインヨウがたまにでてくる。くわしくよみたいばあいはそちらのシヨをてにとつていただければとおもう。

ホンチヨはすべてかなガナブン（ひらがなとカタカナのコンゴウブン）でかかっている。ゼンチヨ（シヨバン、ニハン）「かなガナブンによるサンバンをハツコウヨテイである。」は、すべてタンイツのカナブンまたはかなブンで、タ

イヘンよみにくいというカンソウをいただいた。そこで、コンチヨでは、ニシユのカナの コンゴウブンとした。このホウホウによってタイヘンよみやすくなつたとジフしている。タンジュンにいえば、カンジでかかれるカシヨがカタカナでかかれるというちがいがあるのみである。これによってななめよみもしやすくなったのではおもう。

また、ベツにカンジタイシヨウヒヨウもヨウイした。わからないカタカナゴはこれをサンシヨウしていただければとおもう。

カタカンタイシヨウヒヨウ



イチ

タブン ゲンダイで ゴセンネンまえの くらしかたをしていても、ゴセンネン  
ゴのくらしかたをしていても そのジテンのセキムをはたしていれば ジュウな  
んだろうけど なかなか セキムをはたすのが むずかしかつたりするのだろう。  
だから、ゴセンネンまえのセイカツへと ギヤクシンカ（ギヤクのシンカ）**●**『ア  
ルクカラ カンガエル』**『ア』**とする**』**ニヒヤク」すると タイヘンだつ  
たりするのだろう。そういうわけだから せいぜいニセンネンまえとかに してお  
けばいいかもしれない。

ニ

（アメリカ）ガツシユウコクが「ゲンバク」のケンで せめられるとしたら、

ミンカンジン を セントウに まきこんだということかも知れない。グンジンにあてたのなら、センソウだったから しょうがないけど。ニホンジンも「ヘイがにげられない」センソウ（●『ア』ナナジユウハチ、キユウジユウハチ、ニヒヤクヨン、ニヒヤクサンジユウサン）をしたし、ガツシユウコクも「ミンカンジン」をまきこむセンソウをした。どっちもモンダイだ。

サン

サイキン きにいつているのが ラーユカレーである。カレーに ヨーグルトをまぜたり、ココナツツミルクをまぜたりというのは よくきいたりするが、ラーユをかけてみた。からさがツイカされておいしい。まあ、ギョーザにつかう「シヨウユ」と「ラーユ」をリコンさせて、「ラーユ」をつかうといったところか。わたしは「ギョーザ」をタレなしたべるから カレーにラーユをつかってもつか

いすぎといったこともない。あまった「シヨウユ」はそばにでもつかおうかと。

ヨン

ニジュウネンくらいまえ シイデイやが ケツコウあったものだが、シダイに  
すくなくなってきた。だから、あるシイデイをみせでかおうとおもうとクロウ  
することがある。ザイコをしぼっているみせもあるので、みせにはいつでもか  
いたいシイデイがみつからないことがある。それで オンライン（インターネッ  
ト）ツウハンで かつたりする。ハンメン、チュウコシイデイやが ふえた。そこ  
であたらしめのをかうと たかいので、ふるいのばかりかたりする。そ  
ういうふるいシイデイをかえるようになったのはよいことかもしれないが、や  
っぱり シンサクをききたいとおもう。オンラインでかうのもいいが、みせでか  
いたいから フツウのシイデイやが つぶれるとクロウする。

「シイデイがうれしくなくなった」といわれる。たしかにニジユウネンまえよりかわなくなつた。パソコンカンレンのものにケツコウおかねをつかったりするからだ。それでもヨユウがあればかいたたいとおもう。みせにないからツウハンでかう。ツウハンでかうからみせにおかなくなる。どちらだろう。

ゴ

サイキンはビデオ「デイブイデイ」がサンビヤクエンくらいでかりられる。デイブイデイがすきなひとにはたまらないだろうが、わたしのすきなオンガクとかおわらいのデイブイデイはあまりおいてなかったりする。だからしようがなくかつたりするのだが、そういうモンクをいわなければサンビヤクエンですむ。キユウカのありかたとして、サイキンゴロねをかんにえているので、いいデイブイデイがあればとおもっている。コウホになつているのがホラーである。こむ



ずかしいニンゲンカンケイなどを かんがえずにすむから。

ロク

(おとをならす) ガツキネツ (ガツキずき) というのもこわい。ギターをヨン  
ホンシヨユウしているが、さらに かいたくなつてしまつたりする。ガツキはか  
さばるから おいておくと ヘヤがせまくなる。だから あまりかつてはいけない  
はずだ。しかし、うっているのを ついついみてしまう。ガツキネツというより シ  
ヨウヒヨクなのだろうか。しょうがないので、オンラインサイトなどのかいもの  
ボタンに せてつくつたにせもののかいものボタン (チュウモンがセイリツし  
ないから、しはらいもしようじない) ●『ア』ニヒャクヨンジュウゴ) だより  
である。それをおして ガマンしている。

シチ

あるとき、アイスクリームとおもってかいものをしてたら、ジツはそれがアイスクリームだったことがある。なにがちがうのか。こたえはカンタン、「アイスクリーム」はオンドがたかいととけてしまう「アイス」、「クリーム」であるが、もうイツポウの「アイスクリーム」はシツオンテイドじゃとけない。「ひやした」「クリーム」というわけだ。むかし、「アイス」のテンプラがあるときいたことがあるが、その「アイスクリーム」をつかえばできるんだろう。

ハチ

ビーフジャーキーはすごい。あるキカンはホゾンができるし、あじもよい。ニホンではスルメとかひものがあるが、ニクをつかったものはメイジジダイク

らいから オウベイのギジュツをつかつて つくられるようになったのだろう。チ  
ユウゴクなどのチュウカケンでは ホシニクがあるのにである（ドクトクのコウ  
シンリヨウをつかつていて、それがすきなひとには わるくないとおもう）。わ  
たしがこどものころは おかゆがきらいだったが、おかゆに ホシニクを こまか  
くしたものを のせてたべる（ニホンフウでいえば、さけの ほぐしみだろうか）  
のは、いまなら いいとおもう。

キユウ

ガイコクにあつて ニホンでは 見ないものという、コーヒーあじのアイス  
（このばあい、「アイスクリーム」である。）なんかみない。あれはおいしいのだ  
が。そのかわり、ニホンでは、マツチャのアイスがあつたりする。これもおしい  
い。ギユウニクがのつかったチュウカそばも ニホンではみかけないが まあそ

れはいいだろう。さきにかたつた「ホシニク」もみないきがする（チュウカケンでつくられたニクのちようづめ「オウベイフウにいえばソーセージ」はたまにみかけるが）。チュウカガイなどでうっているのだろうか。

ジユウ

サイキン カンワジテンをひかなくなつた。ホンはケツコウよんでいるが、それほどしらないカンジがでてきたおぼえがない。というと、シュツパンシヤのホウで、「カンジ」をつかうのに、セイゲンをかけているのか、となる。だからあるテイドの「カンジ」がわかればほとんどのホンをスンナリよめてしまうのだからとなる。そういうのをきにしないホンというのもおもしろそうだが（わたしのホンは「カンジ」をつかわなすぎでよみにくいらしいが）。

## ジュウイチ

「オウベイでよくたべる」パンキジ（パンのカンセイヒンのてまえのザイリ  
ヨウである）のきのみ（たとえば、「くり」）とか、「あなのなかのカエル」  
とかいうリヨウリがある。なんだそれはであるが、ほんものをキタイしてはい  
けないのかもしれない。カタホウは、「ドーナツ」というやつである。これは、  
シヤシンをとるときにいう「はい、チーズ」というかけごえ（●『ア』ヒヤク  
キュウ）とおなじで、もとがなんだかわからなくなってしまうているイチレイか  
もしれない。「ドーナツ」は「パンキジのみ」で、「チーズ」は「ポーズ」のこ  
とである。

## ジュウニ

わたしがかうシイデイといえば、むかしかったことのあるアーティストにはほかぎられる。たまによさそうなえ（ブックレット）をみつけてはそのシイデイはわたしのこのみのものだとスイテイしてチヨウセンすることがあるが、むかしかったことのあるアーティストのものだけでもソウトウスウえらべてしまう。ところで、なんでニホンのアーティストのシイデイはブックレットのヒヨウシにシャシンをつかうのだろう。いいえかき（ガカ）がないのか。「え」だとこのみのものをえらべば、このみのオンガクにあたりたりする。ちかごろわたしはシイデイをかうリヨウをおさえているが、オンガクもシゲンだから（ムゲンではない） まあダイジにしようとおもっている。

ジユウサン

ゆずがいろいろいてきた。もうふゆのはじまり（ホンがでるところからいえば、キ

ヨネンのふゆ、イツサクネンまえのジュウイチガツである。)。どうするか あま  
りかんがえていないが、まあ、ゆずスイ（ゆずジュースをみずでわったもの）  
『ア』ニジュウハチ」にするか。リヨウリにつかうのも いいだろう。ゆずの「す  
（『す』ではないが）」のものとか。つけものにも いいみたいだし。このゆずの  
きは、ニネンまえにきられて きずついていたから（●『ア』ハチ、ニジュウハ  
チ、ニヒヤクジュウロク） もうちよつとそつとしておこうとおもっている。

ジュウヨン

もう ふゆがちかい。ゆきおろしのヨウイもしようとおもう。（よくゆきがふる）  
ゴウセツチタイでは あたりまえのようだが、わたしのいえのホウでやると、「え  
っ」という かおをされる。しかし、おもみがあるのだから、おろしてやったホ  
ウがアンシンだ。おととしにそれにきづいて、キヨネンからやりはじめた。

イチバン やねにのぼりやすいところに ショウコウグチをつくり、そこから キヤタツをつかってやねにあがる。かといつて ゆきのときには おいそれとのぼらない、やねにのつても、とけたゆきですべて あぶないからだ。ショウコウグチから ゆきをおろしていく。

キョネンは ゆきおろしに ニ、サンジカン かった。でも、それでよしと。このしのはるまえは ゆきがすくなかったが ことしはどうだろう。

## ジユウゴ

ひとは こたえをとおくに みつけたりするが、アンガイ みぢかなところにあつたりする。わたしは コウエンで ねそべったりするのがすきだ。ところが わたしの いえのホウでは、そういうことのできる コウエンがないとおもっていた。だから、トウキョウトナイの コウエンまで にかけていったものだ。しかし、サイ



キンになつて、いえのちかくにいいコウエンをみつけた。そこならジュウブ  
ねそべられるし、カンタンなキユウギ（たまあそび）などもできる。ニジュウネ  
ンくらいまえにそこはできた。そのころ、トウキヨウトナイのダイガクが、そ  
のコウシヤをトウキヨウコウガイにたてていた。そのときにはやつていたセ  
ツケイなのだろう。ひろびろしているのがトクチョウだ。わたしがかよつたダイ  
ガクもやつぱりそのところにコウガイにコウシヤをつくつた。そこもひろびろし  
ている（ちかごろはダイガクをトナイにシユウヤクしてたてるのがはやつ  
ているらしいが）。さすがにボコウにそうやすやすねそべりにいけないが、  
ちかくのコウエンならそれはできる。ことしは、ホンをよみにそこにいった。  
すずしいキセツにはカイテキなので、またいきたいとおもう。

ジュウロク

おとしぐらいから コンビニエンスストアで、コーヒーをうりだすようになった。アイスコーヒーものめるし、よくできている。しかし、そんなにたかくないとはいえ、ナンバイものんでしまうと、ケツコウなキンガクになる。わたしもイチニチにゴハイとかのんでいたので、シユツピをへらそうとかんがえ、「むぎちや」をドウニユウした。むぎちやだとヒヤクエンでニジュウゴハイのめる。だからサイフもなんとかからならずすんでいる。

ジュウシチ

ベツに「かみ(きま)」はヒテイしないが、わかいころは、なぜチキユウがまわっているかセツメイできなかつた(そのセツメイは、●『ア』ヒヤクロクジュウサン)。そういうバカになんかわるいことをふきこめば、いい(よくないが)キョウキになっていたかもしれない。だから、なんかをふきこまれても、

「わからない。」といい、わかるまでまつのがかしこいとおもう。たしかに、だれかにきけばおしえてもくれるだろうが、まあ、そのひとに「でしいり」するようなものだ。

ジュウハチ

そういえば、しばらく（ふででモジをかく）シュウジをしていない。ロク、シチネンまえ、「ジコシホンヒリツ（シヨウバイでのジギョウシヤのシュツシリツ）をおおきくする」とかいたが、まあ、それはすこしづつタッセイしている。でも、ジをかくのは、レンシュウしなかつたのでへたなままだが。

ジュウク

むかし、「ブブンテキ（ゼンタイテキでなく）なヘイワをみとめるか」とい  
といをかながえていた。なんかおおきなことをかながえているからわか  
いとおもうのだが、それぞれのドリヨクではないかといまはおもう。「ブ  
ブンテキなヘイワ」じゃなくて、「ヘイワシサン（ザイサン）」があると。そ  
れぞれの「ヘイワシサン」をどうそれぞれがあつかおうがそれはキホ  
ンテキにジユウであろうと。いつてみれば、「ジユウヘイワシユギ」だ。  
イチバンはじめにかながえたところは、しごとはコウムインがいいの  
ではとおもっていたりしたのだが。

## ニジュウ

「なんでいきているのか」ととわれたとき、「なぜ」というイミなら、「な  
にかをたべるから」とこたえ、「なにが」「いきさせるのか」なら、「ブッ  
シツがうごけるから」とこたえる。そのこたえだと、もし、ブッシツが  
うごかないよう

だったら、「いきられない」んだろう。たとえばまわりのオンドがひくいとか（それだとブツシツのジョウタイがコタイばかりになる）。そういうブツシツが「うごける」ジョウケンがあるからいきられると。

エキタイやキタイだとブツシツはうごけるカノウセイがある。だからタイヨウからとおいカセイより、スイセイ、キンセイのホウがセイブツはみつきりそうだとおもうが、そういう、エキタイセイブツとかキタイセイブツはソウテイガイなのだろうか。

## ニジュウイチ

（セイジカをきめる）ミンシュセンキョはシジョウ（とりひきがなされる）シュギでいいかもしれないが（タクサン「うれた」ひとがかつ）、イツテイスウの「コウバイ（というか）」にいたらない（「かわない」）ひとができてくる。そ

れでも なんかのセイトウをシジしてりやいい。どのコウホシヤもセイトウもシジできないとすれば、そのひとがリツコウホするのが ダトウかとおもうが、ゲンジヨウのセンキョは、トウヒヨウにいかず、『センキョ』がないことにする」に トウヒヨウできるといふところが すごい。そういうひとたちがふえたらどうするのだろうか。

ニジユウニ

はるにニラのはながさき、あきにはたねができていた。イチネンセイのシヨクブツつていうのは そんなものだろうか。しかし、モヤシは はながさいたが、どうも「たね」はカクニンできていない。

ニジユウサン

「ジブンらしき」をツイキュウするなら、いまのニホンでは「ニホンセイ」のたべものをたべるヒツヨウがあるかもしれない。モチロン、ニホンジンドウシのケンカもあるだろうが、すくなくとも「ニホンジン」であろう。もっと「ジブンらしく」なりたかったら、あなたのいえの にわにはえ、かつ、ほかのだれもたべていない くさでもたべるといい。それは、あなたしかたべないから、すなわち 「あなたらしい」。でも、フツウの「ジブンらしき」をもとめるのだったら、ほかのひともたべているものをたべるだろう。あなたが ジミントウシユギシヤ だったら、「(アメリカ) ガツシユウコクセイ」の たべものも たべていいのだとおもう(そのわけは、●『ア』ロクジユウサン、ヒヤクゴ、ヒヤクロク、ヒヤクゴジユウキュウ、ヒヤクロクジユウロク)。

ニジユウヨン

わたしがわかいいところは、シツギヨウシヤみたいなかんじだったので、まあそれはそれでよかったが、いまは、シツギヨウしているとこまるので、「シツギヨウシヤのきるようなフク」はきていない。ロックバンドのハダギ、ブランドロゴがはいったハダギ、スポーツものの、サーフケイのなど、いろいろきていたようなきがする。でもいまは、ハダギでひとまえにでようとはとくにおもわない。

## ニジュウゴ

やすうりヨウフクやがワダイになったりする。いまではセイサンだけでなく、ハンバイモウもカイガイでのばしているとか。そのキョウゴウテンもふたつほどあるようだが。わたしのいえのちかくにそのみせがユウメイになるまえからテンポをかまえていたからそのヘンカがわかる。そのトウジはガツシユウコクサンのブランドヒンをまじえてうっていた。フクのいろづかいなどがジミ



なものをうっていったとおもう。そのみせが あかぬけてしまうのだから おもしろい。まあ、ドリヨクなのだろうが。

なんかいか チノパン（ツ）をかいにいった。ベンリなようだが、そのみせのおかげで、ニホンセイとかガツシユウコクセイのフクをかいづらくなった（チュウゴクセイのやすいフクが うれるから そのたのフクをあつかわなくなった）って いうのは かんがえものである。

## ニジユウロク

リサイクルのツゴウでゴミをブンベツしなければいけない。とはいってもゴミばこは ひとつだから、しょうがなく ゴミぶくろにまとめたりする。ゴミばこを ふたつにすれば カイシヨウされるモンダイであるが、ふたつもおくと あきクウカンが なくなってくる。いいカイケツホウをさぐっている。ゴミばこをた

てにチョコレートにおくとか。

## ニジユウシチ

パソコンのあたらしいソフトがでた。サンネンにイツカイぐらいあたらしいものがでるから、サンネンぶりといったところだろう。わたしのパソコンでもそのあたらしいソフトはつかえるらしいが、そのほかのソフトをサイシンバンにしないといけないとなるとちよつとまってくれと、いいたくなってしまう。もつともよくつかうソフトはふるいものだから、ふるいパソコンでうごかしているのだが。そういうコンテンツからいうと、サイシンバンをドウニユウしてしまつてもいいのかもしれない。ふるいパソコンでうごかせばいいから。むかしのパソコンはたびたびエラーがおきていたがそのテンはカイゼンされているからいいとおもう。

## ニジユウハチ

ことしはなつに コウコウヤキュウをみにいった。キュウジツだとケツコウなキヤクいりだ。しあいにかちつづけるといわれる「コウシエン」にいけるのだが、わたしのボコウはそこまでかちつづけられなかった。いいセンまではいったが。

## ニジユウキユウ

パソコンをもちあるくのはケツコウなロウリヨクである。そこで もちはこばないですむジブンのパソコンというのをキカクした。パソコンはなかのクドウキロクソウチをつかってキドウする。そのクドウキロクソウチをそとづけにして、そのなかに、キノウのゼンブをいれてしまい、そのソウチだけをもちは

こぶようにかんがえた。しかし、ためしてみると、そとづけクドウキロクソウチからのキドウはできなかつた。ベンリかとはおもうが、ソフトウエアがうれなくなるからか。

サンジユウ

フロイドセンセイ(セイシンブンセキをはじめたイシ)は、「ファルス」についてかたつたとされるが、そのリロンをオウヨウするようにとあるセイヒンができてゐる。ニホンでは、「おとなのおもちや」といわれるが、タブン、フロイドセンセイのコウセキだろう(●『ア』ヒャクジユウサン)。

サンジユウイチ

こどものころよくテレビゲームをやっていた。こどものシセンからいうと「おもしろい」からそうモンクはないのだが（モチロンつまらないゲームもあった。）あるティドとしがたってみると、よくだれかのシヨウバイにのっていたともおもう。ゴセンエンとかするとこどもにとつてはやすいキンガクではない。シヨセン、あるガメンにえがでるあそびだ。そのガメンにヒヨウジされたナイヨウとジツサイのセイカツとはなにもカンレンがない。そんなあそびをよくやっていたとおもう。たまにはいいかもしれないが、「デンソウ」からときはなれたのにまた「デンソウ」にかかわろうとはおもわない。「シヨウギ」ゲームとかならないが。

## サンジュウニ

あるマンガ（アニメ）にでてくるあるひとがたのキョダイなセントウヨウ

のキカイは、ゲンダイの「ブツゾウ」といつてもよいくらい ニンキがあつたりする。ジツサイそのおおきなモケイが、トウキョウのリンカイブでコウカイされたらしい。それが、ニューヨークにあるおおきなゾウをちいさくフクセイしたゾウのちかくにおかれたものだから おもしろい（ニューヨークのゾウも「ブツゾウ」かもしれない）。

そのキカイのモケイをみに えらくひとがあつまつたらしい。ほんもののブツゾウはみにいくひとはいるが、マンガでてくるなにかのように、「コスプレ（フソウ）」をするひとはいないようだ。それなりに シジをあつめられるとおもうが、ほんもののブツゾウを「かたれる」ほどのキョウヨウがないのだらう。わたしだつてないが。

サンジユウサン

デンチシキのワープロはないみたいだが、デンチシキの にたようなものをハッケンした。ポケットピーシーである。カンドンチでうごき、インサツはできないが、ブンシヨサクセイや ヒヨウケイサンができる。そういうのをみつけたのでかかってつかいはじめた。パソコンだと、シリョウをかたてに うちこむのはタイヘンだが、ポケットピーシーだと、シリョウをキカイのしたにおいて うちこめばいい。わたしはこれがきにいって、ブンのうちこみなどは これをつかっている。サイキンは こういうのをつくっていないようだが。

サンジユウヨン

ジカンを「エル（アルファベット）（ロコモータータイプ）」ではかるとしたら、キオンがとてつもなくひくくなれば、ウインドウが（つまり、キタイ、エキタイがトウケツして）テイシされるだろうから、いきられない（●ニジユウ） という

かジカンがそのコタイについてはながれない。だから、ニンゲンは（いきられる）うごける、つまり「エル」であるが、きびしいジヨウケンでは「エル」にはならない。

ニンゲンのイッシヨウをかりに「エル」とすると、そのナイヨウは、ニジュウヨン（ジカン）かけるサンビヤクロクジュウゴ（二チ）かけるハチジュウ（ネン）になる。ケイサンすると、ナナジュウマンハツピヤクである。このスウジを、ウンドウのおそいジヨウケンでかんがえてみる。たとえば、ハチわりのはやさだつたら（さむいところなどで）、「エル」はドウイツジヨウケンとしてかわらない（ウンドウのソウリヨウはかわらない）が、ソウリヨウがナナジュウマンハツピヤクとしても、そのウンドウ（ソウリヨウ）をカンリヨウするのに、ハチジュウナナマンロクセン（ヒヤクサイ）かかることになる。つまり、テイオンでセイゾンしたほうが、ウンドウのソウリヨウはかわらないとしても、ニジュツサイながくいきられるカノウセイがある。つまり、さむいくにのホウが、ながくいきら



れるということである（ジツサイ　みなみのくにより　キタのくへのホウがながいきである。）。

サンジユウゴ

「プロ」ということばもガイコクからはいつてきたとおもう。「プロフェツシヨナル」というイミがおおいとおもわれるが、「プロテスタント」かもしれないし、「プログレッシブ」かもしれない。だから、「あなた『プロ』でしょ」とかいわれてウカツにこたえと、「あいつはハンタイハだ。」とかいわれかねない。よくイミをカクニンしてこたえなければならぬ。それか『ニユートラル』です」とかいえばいい。

サンジユウロク

あるトシのことを「ニューヨーク」という。そうか「あたらしい」から「ニューヨーク」だ。じゃあ「ふるい」「ヨーク」もどこかにあるのだろう。そうやってレキシをまなんでいく。

サンジュウシチ

アンガイ、なんかのギロンってサイゴまで大きくヒツヨウはないかもしれない。ギロンしているサイチュウのおもしろいロンテンだけハイシヤクしてしごとにもどるのがいいかもしれない。ニンゲンひとりではやることはかぎられているのだから。イツコケツカをだしたらまたギロンをきくとか。ずっと「ギロン」しているひとはすごいとおもうけど。

セイジカがまるばつセンセイのセツをインヨウしてかたつたけど、まるばつセンセイはそれはちがうといいはじめることもあるだろう。そうすると、トウヒョウシヤからの「シジ」がわるくなるから、セイジカはむかしのことばとか、しんでしまったひとがセイゼンいつていたことをいえばアンゼンだ。しかし、そこに、「レイコン（たましい）のフメツ（なくならない）」みたいなかんがえがドウニユウされると、そういうこともいえなくなる（レイコンにヒテイされてしまうからだ）。そうすると、ゴジブンのことばでいいはじめるのだろうか。そのホウがセイジカのシツがよくなるような。すくなくともセキニンテンカはできなくなる。そういうわけで、セイジカのシツをあげたきや「レイコンのフメツ」をドウニユウすればよい。

サンジユウキュウ

サイキン、ホンだなのセイリをして、なにもないという「クウゲン（からっぽというシゲン）」「●『ア』ニヒヤクニジユウキュウ」をカクホした。でも、それではちよつとヨユウができただけなので、ほかのホンをかっつけてしまえばすぐにうまってしまう。だから、からっぽのホン（ホンがたのノート）でもかっでこようかとおもっている。そのなかみをかきこんでいけば、「ホン」になる。もうふたつほどシツピツがきまっているので、からのホンをふたつつくればいい。そうやってジブンのホンがホンだなにはいっていく。

ヨンジユウ

「あたらしいシホンシユギ」というのもあるのだろう（ジツはふるい「シホ

ンシュギ」かもしれない)。ある「(みどりのはっぱをもつ)き」がおしえてくれた。しかし、ニンゲンが(わたしが) そのあたらしいシホンシュギになれないために、むかしながらの(イツパンテキな) シホンシュギにあうように チョウセイしようとしたりする (●『ア』ニジューキュウ、ニヒヤクジューニ)。

「あたらしい シホンシュギ」とはなんだろう。としよりが かねをもつ というのはかわらないが、ちいさいこどもも ゲンキというかんじのものだ。としをとると ネンキンがもらえて さらにゆたかになる というのは セイドをかえなにかぎり かわらないが、ちいさいこどもが こづかいをもらってか それなりに ハンエイする というものだ。たしかに「こどもてあて」というのはある。そういうのをつかって、こどもがジブンのポケットマネーで ガクヒをはらったり、シヨクヒをはらったりということも そうかもしれない。ただ、ニホンジンのばあい、あまりこどもをダイジにしないブンカがあるらしいから、むずかしいだろう。

ヨンジユウイチ

「かんがえる」とよくいうがそれはアンガイ かなしいことばかもしれない。「カン」がえられたのであるが、それを「かえて」しまおうということではないか。だから、「かんどおり」とか「かんすすめ」とかだったら かなしくないのではないだろうか。

ヨンジユウニ

ストーリーという。これには「ものがたり」というイにくわえて、「(たてものたかさによる)カイ」というイがある。だから、あるカイソウでのまとまりというガンイがあるのだろう。だから、そのひとにあわないストーリーがある。デパートでかんがえれば、サンカイのフジンフクうりばは わたしにはあわないと

かだ。デパートでなくても、とくにカイキュウシユギなら（ニホンではイチオクソウチュウリュウといわれるが）、それぞれのはなしをもつだろう。だから、ガイコクセイの コウキュウヒンというのは ショミンテキではないストーリーをもつのだろう。イチジキやたらと コウキュウヒンをかう ニホンジンがいたらしいが、まあタシヨウ そういうストーリーに ふれることはできても、ほかのコーナーネットが できていなかったのではおもう。

## ヨンジュウサン

コウジョウなんかでは ニジュウヨジカンソウギョウをしている。なぜはじめたかは セイカクにはわからないが、コキヤクにはやくセイヒンをとどけたいからとか キカイをレンゾクで つかいつづけたいからとか なんだらう。そうすると シンヤにはたらく ニンゲンも ヒツヨウになる。そういうひとがいないと ニジ

ユウヨジカンソウギヨウはなりたたない。シヨウテンもニジュウヨジカンエイギヨウをしていたりする。いつでもかいいいけるのでベンリだ。しかし、なぜニジュウヨジカンガツコウがないのか。ニジュウヨジカンソウギヨウやニジュウヨジカンエイギヨウのキギヨウではたらくロウドウシヤがいるはずなのに。かんがえてみれば、シンヤにあつまるシヨウニンズウをあいてにジュギヨウをやるのはヒコウリツである。だからそういうジュヨウは、オンライン（ツウシン）がみたすのであろう。

ヨンジュウヨン

「レイセン」とかいったりする。まあ、ケイヨウテキなことばかもしれないが、ジツサイにそうなるとやっぱりさむいのだろう。ニセンジュウニネンのふゆはさむかった。あるところでは、そのてのアニメイガができるほどさむかった



のだろう。ただ、ニジュウネンほどまえ、「ロウドウカンレイキ」みたいなことばがあった。いうホウはあまりきにしないようだが（わたしもおなじことをしているカノウセイがある。）、そのことばをブンカイして、「かんれいき」になったらまらないとおもう。どうしてそういうことをいうのかであるが。たまにそういうひどいことばに でくわす。

## ヨンジュウゴ

「デザート」とは むかしよくきいたものだ。しかし、サイキンはそのてのものを「スウイーツ」というようだ。たしかに そのホウが セイカクなようなきがる。イッタイいまではなにも「デザート」というのである。 「デザート」は「コウロウ（よいつとめ）」というイミがある。あまいカシなどは、まったくひとのシヨクヨクをみたま「コウロウ」をするものであり、また それをシヨクす

るひとも「コウロウ」をなせしものがふさわしいであろう。たいしていいこともしないのに、あまいものにくらいつくというのがいまのリユウコウで、それなら「スウィーツ」にしよう。とだれかがかんがえたのではないか。

ヨンジュウロク

きずついたゆずがみをつけた（●ジュウサン、『ア』ハチ、ニジュウハチ、ニヒヤクジュウロク）。キヨネンもわずかになったのだが。みをとってテキトウにきつてみずにいれた。イチネンハンぶりのゆずスイ（●ジュウサン、『ア』ニジュウハチ）。ちいさいみでつくったときはほんのあつきりあじだったが、いろづいてからののはケツコウあじがする。ほんのひとときれでもあじがする。いまのところふたきれでつくっているからまだまだたのしめる。

たべものをくちに入れるとイにおちる。そこからシヨウカされるとい  
うのがフツウだ。もし、ニンゲンがさかだちをしてセイカツするようになったら  
どうなるか。たぶん「おもさ」のモンダイで、くちからたべものをいれても、  
イのホウにいかないのではないか。じゃあどうすればいいか。フツウにくらし  
ているばあいとギャクのながれをかんがえればよいのでは。ただそうすると、  
タイナイをとおってきたたべものをサイゴにあじわうことになる。それで、  
くちからだされるたべものは「うんこ」とギャクのながれだから、「こんう」  
ということにする。それをだすまえにあじわうのはゴウモンのような気がする。  
ニンゲンには（ニンゲンだけではないとおもうが）できにくいこともある。タブ  
ンでできなくはないがやらないのだろう。

ヨンジュウハチ

「サバサバ」している というのもとはガイコクゴでないか。フランスゴに  
そういうことばがある。「ゲンキゲンキ」している というヤクになる。やっぱり  
エドジダイとかにはいつてきたのだろうか。

ヨンジュウキユウ

キユウジュウネンダイ、レイネンダイに「セルフサーブ」の mise がふえてきた。  
ちよつとしたシヨクドウにはいると いくらかでのみものを「セルフサーブ」す  
ることができるといふメニューを えることがおおくなった。「セルフサー  
ブ」により テンインのロウリヨクがへり、カカクもやすくおさえられるのだろ  
う。そのメニューがはじまるまえより イツパイのカカクはやすくなったとおも

う。ただ、テンインにもつてきてもらいたいときもあるので、センタクできるといいとおもう。

カテイでだすごみのブンベツも「セルフサーブ」になった。ゴミシヨリヒがやすくなったというはなしはきかないが、そのブンやすくなっているのだろう。（ロウゴの）ネンキンなんかも「セルフサーブ」にしたらうけとるブンがふえるか、ギョウセイのヒヨウがへるかもしれない（カクテイキョシユツガタのネンキンがあるが）。イリョウホケンもそうだ。ただ、ロウドウリヨクかおかねをださなきやならないが。

ゴジユウ

「センギョウシユフ」がへつているときく。そうすると、カジをするジカンがすくなくなるだろうから、「カジ」のシツやリョウがおちるとかんがえられる。

また、ガイチュウをするようになるだろう。カセイフをやとうということではなく、ソウザイをつくらずかっってきたり、こどもをどこかにあずけたりというようにである。そうやってやくわりのセンモンカがすすみ、カゾクのやくわりはおかねをかせぐだけになるかもしれない。

## ゴジュウイチ

(たべる) ショクがみだれると、(ビョウキをなおす) イリヨウにかねがかか  
ることになる。タブン、ニホンジンなんて イリヨウにかねをかけすぎだろう。  
コジンのカンテンからみると、そんなにイリヨウにかけているきはしないが、  
ホケンだ、ホジヨキンだ。しはらうガクが ひくくおさえられるからだろう。ジ  
ツサイはケツコウなガクがかかっている。

ショクがみだれるのも、やくわりのセンモンカがすすめば しかたないかもし  
れない。ショクという ニンゲンのもつともキソテキなこと 「ガイチュウ」す  
るからである。いつそのことメニューのセンタクまで センモンカにまかせてし  
まえばいいが、さすがにそこまでは できないであろうから、エイヨウのジョウ  
タイがよくなくなるのである(そういうブンは センギョウシユフがよくや  
っていたのだとおもう)。ニホンのわかいひともしうだが、ハツテントジョウコ

クなどで、そういうシツパイをくりかえさないようにとおもう。そういういつつ、わたしもガイチュウをしているのだが（エイヨウはかんがえています）。

## ゴジユウニ

こどものころ かったテレビゲームキは、「クロウ」だったのではないかとおもう。あれにシュウジユクしたところで、ゲンソウしかのこらない（コウウンにも「メイジン」になれたところであらう。ただ、そういう「バカ」なわかもものは、ロウよむべきだったのだろうとおもう。ただ、そういう「バカ」なわかもものは、ロウドウシャとしては、つかいやすいのかもしれない。ただ、そのゴに「ジユケン」とかあったから「バカ」ではなくなっていたかもしれない。それもかんがえらる。「チュウトハンパ」だ。としをとってくると、わざわざクロウはかかってきたくない。そういうわけで わたしは このごろテレビゲームをやっていない。「ク



ロウはかつてでもしろ。」とだれかがいつていたのをおもいだすが（「わかいろのく。」だったかとおもう）、そんなのをわざわざかわなくても、ほかのク  
ロウがある。

### ゴジュウサン

ヨーロッパでは、ローマのシハイからドクリツしてくにをつくり、やがてあらそいはじめた。そういうレキシをかんがえる（さきのシテキどおり、「かんどおらせる」といったホウがいかもしれない。【●ヨンジュイチ】とニホンもチホウブンケンをすすめるとあらそいはじめるのではとおもう（おきなわのベイグンキチでもめているが、あれを「しったことか」というようになったらもうドクリツさわぎだろう）。すでにあらそったレキシはある。あらそわないようにうまくやるのがダイジなのだろう。そういうしくみができるかというのが

チホウブンケンのカダイなのだろう。

ゴジユウヨン

レキシジヨウ(チュウゴクシ)でフホンイなしにかたをしたひとがいる。ア  
ンサツされる というのは わりとよくあるはなしだが、これからはなすひとは  
あるくにのオウにジサツをめいじられたという。

そのくにがあるベツのくにと、いくさをしてかち、そのくにをシハイした。し  
かし、そのシハイされたくにのオウが トクをつむのをみて、やがてまた あら  
そいになるだろうことを あるシヨウグンは シハイがわのオウにシテキした。し  
かし、シハイがわのオウはそのことばをうけいれず、そのほかのくにの セン  
ソウにカイニユウする。それでも そのシヨウグンは、オウをいさめるが オウは  
あらためようとしな。そして、やがて うるさがったオウは かれにジサツをめ

いじる。シヨウグンはそれをきき、ジシンのソウギのジヨウケンなどをいいの  
こすが、オウはそれにいかり、そのシヨウグンのなきがらを かわになげすて  
しまう。

ニホンジンは、いたいときに「うう」といったりするが、そのシヨウグンのセ  
イもそれとおなじだ。チュウカケンでは、まいとしあるジキに そのシヨウグ  
ンをまつっている。イジヨウが そのシヨウグンのはなしたが、ジカンがあつた  
ら、「ああ」シヨウグンのはなしも さがしてみたいとおもう。シヨウグンかどう  
かも、ジツザイしたかどうかともわからないが。

ゴジユウゴ

ちかごろは、なにかのサギヨウをおえるときに、くを「ソツギヨウする」とい  
ういいかたをするひとがいる。しかし、「ソツ」というのは、ゴリンジユウのイ

ミがある。そのひとたちがいうのは、「ギョウ」をおわらせてしまうというイミだろうが、ガクモンや わざや ダンタイを シュウソクされてはこまるメンがある。こういうかんじだから、ニホンジンは ガツコウや そのガクセイセイカツを すんなりと 「ゴリンジュウ」させてしまうのかもしれない。せめて、「わたしにかぎつていえば」「ソツギョウしました。」とかの シュゴや セツメイがあるとい いとおもう。どうも「くを」というのに ジュウテンがおかれているように おも っ て しま っ 。

### ゴジュウロク

「ガシンシヨウタン（きの まきのうえにねて、ドウブツのきもをなめる）」の ことをしらべていたら（このはなしは、ゴジュウサンではなした ひどいしにか たをした ショウグンが おそれていたくにのオウが していたことのビョウシヤ

である。)、あるシヨモツによると、「ギョウタン(きも)「ドウブツの」をあおぎ)シ  
ョウタン」であった。どうも、「ギョウタン」とか「しおタン」があたまをよぎ  
つてしまうのがなさけなくおもう。ちなみにこのばあいの「タン」はエイゴで  
ある。

## ゴジユウシチ

(アメリカ)ガツシユウコクとのコウシヨウで、ニジユウネンほどまえ ニホ  
ンセイフはコウキョウトウシをすることになったという。で、ドウロをたくさ  
んつくつたのだろう。おかねのむだづかいともいえるが、それは、「いきどまり」  
ではなくて「みちができた」というキボウがあることばになるので、まあよかつ  
たのかもしれない。

ゴジュウハチ

なかなかゲンダイブンのカンカクで、ヒヤクネンマエのホンをよむとなかなかすすまない。いまなら、ひらがなにするモンクをカンジをつかつてあらわすからだ。まあカツジだとジショをひけばよめるからいいが、タツピツでかかれると、よめない。だから、タツピツでかかれたむかしのショはいまのところよめるきがしない。

ゴジュウキユウ

あるくからかんがえる。とはわたしのイツサクめのホンのダイだ。あるくからシゲキがえられて、かんがえるというイミだ（●『ア』ヒヤクロクジュウニ、ヒヤクロクジュウヨン、ヒヤクハチジュウサン）。しかし、あるくならトカイより

いなかのホウがいいだろう。それは トカイだと、タイテイのものはサクシャがセツメイすればわかるようになる。だが、いなかだと、そういうセツメイはえられない（モチロン、ガクシャのセツメイやカセツはあるだろうが）。だからか  
んがえる。

ロクジユウ

ビル（カンジヨウがき）が たくさんたまると ケツコウなたかさになる。モチロン つめばであるが。イツコイツコすばやくケツサイしていけば たかくはならないが たまると たかくなってしまう。ちかごろは むかしより よくためているのだらうか。なぜなら コウソウのたてもものが ふえているからだ。エイゴではビルディングというが、ニホンでは「ビル」といわれたりする。つまり たかいビルが たった というとき、たかく カンジヨウがきがつみあがったとも べつのセ

ンでいえるのである。ホントウにカンジヨウがきがつみあがつているのか。かんがえてみると、タジュウサイムでジコハサンみたいなはなしがたまにある。ジコハサンはカンジヨウがきがシヨリできなくなっておこることだ。あまりきかないがジツはよくあるのかもしれない。ビルのかずだけ、カンジヨウがきがつみあがつているといえるのであろうか。

## ロクジュウイチ

レツシヤのことをトレインという。しかし、トレインといえば「クンレン」だったりする。このイミのひらきは どうセツメイするのか。それをかんがえようと、ツウキンジの マンインデンシヤが ホントの「トレイン」ではないかとおもう。つまりトレインのなかで、どんなアツリヨクがかけられても シヨウキがたもてるように ジョウキヤクをトレインする。こんなかんじで イミがコテイされた



ら マンインデンシヤはなくならないだろう。どうすればいいか。それなら、「ホイール（シャリン）」をきたえましようとか、レイルウエー（テツドウ「センロ」）をきたえましようとするればいいかも。

ロクジユウニ

うたばんぐみがたまにテレビでハウソウされている。くにのハウリツもうたぐらいのながさにならないものか。やたらながくおもえる。かんがえてみれば、ハイクやタンカはあったし、むかしのハウレイはみじかかったような気がする。ようするにセイジカやカンリヨウががんばっているのだろう。いまのハウブンじゃうたっていたらジュツプンイジヨウはかかる。ジヨウシキテキなうたのながさがゴフンとかだから、せいぜいそのテイドにすればともおもう。

ロクジユウサン

「カイケン（ケンポウカイセイ）」さわぎなどあったりする。これはみおとしがちなのであるが、いまのケンポウには、シヨク（たべる）のジユウが「ある」とはかかれていない。「グルメ」だのなんだのはなしをきくと、ちよつとやりすぎかとおもう。そういうえば、おさないころ、おやじに「いやならたべるな。」といわれたものだ。おやじはセンソウもしているセダイなのでセットクリヨクがあつた。たしかにケンポウに「ジユウがある」とはかかれていない。もし、そのジユウをみとめてしまうと「ガツコウキュウシヨク」もなりたたなくなるかもしれない。あまり、「シヨク」にこだわらないというのはダイジだろうか。

ロクジユウヨン

ふゆはさむい。トクによあけがイチバンさむいようにおもう。よるのあいだひにあたってないから どんどんキオンがさがっていくからだろう。そうかんがえると、「カクのふゆ（カクセンソウでつくられたふゆ）」なんて そうとうさむいのだろう。だから「レイセン（コールドウオー）」といったのではないか。

ロクジュウゴ

ひさしぶりに すなぎもをたべた。「すなぎも」といわれても どのブブンだかわたしはわからないが おいしい。おやじがよくかかってきて くしやきにしてくれたことをおもいだす。「もつ」というセンタクシもあったとおもうが「すなぎも」だった。もうゴネンはたべていかなかった。そういうあじで おやじをおもいだす。

ロクジュウロク

「クリスマス」といえば どうも トリニクをたべるひとかんちがいしてしま  
いそうだが、キリストのタンジヨウビをいわうらしい。ガツシユウコクにいつた  
とき、あるシヨウテンで、うたをガツシヨウしているひとたちにであった。わ  
たしは、コウコウセイのときに そんなきもちもないのに「おお、シユよ」とう  
たわされそうになって いやだとおもっていたのだが、ちゃんとしていると（そ  
う、チャントだ）いいものだとおもう。そう、オウベイのひとのガツシヨウはう  
まい。ニホンジンがうたうと、なんかハクリヨクがない。やつぱり レキシなの  
だろうか。

ロクジュウシチ

たしぎんっていうのは カンタンなようにおもえるが、それは、どこかで ひきざんがなりたっていないと フカノウだ。たとえば、ニヒヤクエンのさかなをキヤクにうる となると、「さかな」 イツピキが ひきざんされて かわりに ニヒヤクエンをうけとるわけだ。さかなは ムゲンにあるようだが、やつぱり エサとか シゲンに かずがサユウされる。ジブンのこづかいを ひきざんするというのは つらいが、ベツのものを たしぎんするために しかたなかったりする。

## ロクジュウハチ

ひとのドリヨクっていうのは、それをみるひとが ドリヨクをしたことがなければ わからないのだろうとおもう。ドリヨクして、あたらしいキョウチにタツするということもあるだろう。ただ そのあいだのドリヨクというのは、ひとによくおもわれなかったりする。まえのように やってればいいのにとか。でもそ

のドリヨクがみのるとやっぱりすごいとなる。「コケツにはいらずんば コジを  
えず。」である。

ロクジユウキユウ

コンキのふゆはダントウだといっていた。たしかに そんなゆきもふらなかつた。イツカイつもったが、まあそれほどでもなかった。ケツキヨク コンキはゆきおろしを しないようではないか（●ジユウヨン）。ゆきおろしヨウの フクも コウニユウしたが、まあコンキは デバンがないかもしれない。きのうもちよつとふっていたが すぐとけてしまった。

ナナジユウ

「はるイチバン」というが、どのかぜにそうなづけるのかというのはむずかしいとおもう。にたようにふいたりするからだ。だからおもいきってつけてしまえともおもうが、そうもいかないのだろうか。

ナナジユウイチ

サンネンまえに、シヨクジのエイヨウのベンキョウをした。ベンキョウといってもドクガクであるが。たまごがタンパクシツをどのくらいふくんでいて、なにかがシシツがおおいというようはなしである。だから、そのゴ、エイヨウにきをつけたシヨクジをつくるようになったが、おふくろにはフヒョウであった。「そんなにたべたくない。」といわれてしまった。エイヨウをとったホウがいいようだけど、ほかのリユウもあるのだろう。「たべたくない。」じゃしょうがない。たしかにそんなにうごかなければ、エイヨウはシヨウヒされないと

もおもう。それからわたしはわたしでシヨクジをするようにした。でも、ねむれないとかそういうコンナンがあったら、イツカイダンジキをするとすんなりねむれたケイケンがある。エイヨウぎれでねるというのもひとつのセンタクシだろ。

ナナジュウニ

チュウカケンのシヨウガツは「キユウレキ」のである。バクチクをよくならず（そこでジュウゲキジケンがおこつてもわからない）が、ニホンではうたばんぐみがおわったあとのかねのおとであろうか。はつもうでといいひとがジンジャやジンにむかう。そんなにシンジンぶかいのかはわからないがまあそうする。それもどこかのユウエンチャ「おいしい」リョウリヤにならぶのとおなじようにへイキでイチジカン、ニジカンならんでいるからすごい。さむいな



かをだ。こむジカンをさけていけば そんなことをしなくてよいのだろうが、やっぱりならぶのがいつものことのようにだ。ゴガツのレンキュウもそうだ。ずらしにいけば そんなに こみあわないのだろうが。ツウキンデンシヤもそうである。しごとに行くのと おなじくらい ダイジなことがらなのだろう。

ナナジュウサン

わたしがわかかったところは、きどつて まあまあのさけをのんだ。たとえば ウィスキーのジュウニネンものとかである。しかし、しごとをやるようになってから さけのトウキュウをおとした。どちらかというところ「リョウ」が ヒツヨウになったからだ。ようするに チューハイをのむみたいはなしである。ウィスキーなどに こおりをいれてのんだジキもあったが、それから そのままにかわり、いまでは みずでわってのむことがおおい。ジブンなりのスタイルができたといっ

てもいいのだろうか。

まえに「ゆずスイ」のはなしをした（●ジュウサン、ヨンジュウロク、『ア』ニジュウハチ）が、それでウイスキーをわつてのむとおいしい。まあカクテルといえなくもないがそれはそうとフマンなくのめる。もうすぐはるであるがまだゆずがそこそこある。「ゆずスイ」もおいしいし、「ゆずわり」もおいしいからまだたのしみはつづく。

ナナジュウヨン

なぜガツシユウコクのひとたちが「シヨウヒ」のケンインヤクとされるのか。それはタブンガツシユウコクのひとのいえがおおきいからである（ここではブツリテキにおおきいといっている）。だから、ガツシユウコクのひととくらべてニホンジンのシヨウヒがすくない（シヨウヒがのびなやんでいる）というの

はやむをえない ことだろうとおもう。ニホンジンのいえは「ちいさい」といわれるし、いえのおおきさの ハンイでしか ものはシュウノウできないからだ。そういうわけだから、「ものがうれない」というのをなげくのだったら、「おおきな」いえをたてることにキョウリヨクしたホウがいい。

ナナジユウゴ

ニンゲンは キホンテキに コタイとエキタイでできている。「ほね」なんかは コタイだし、「ち」はエキタイというぐあいである。では、キタイでできたニンゲンだったらどうなるか。いろがつかなければ「トウメイニンゲン」である。まあ キタイだから「キタイニンゲン」にしておくか。カガクハンノウとか エイヨウセツシユができれば セイゾンはカノウだから できなくもないようにおもえる。いつものように、ニクや ヤサイをたべてしまうと、いろがあらわれてし

まうから コタイとエキタイのニンゲンに いやがらせをされてしまいそうだ。だから トウメイなエイヨウザイを セツシュするようだろう。エイヨウのジュンカ ンも トウメイな キタイでおこなえば まあセイゾンできるんじゃないかと。ただ、ニンゲンとうまくやっていけるかが モンダイかもしれない。

## ナナジュウロク

わたしがわかいころは「したぎ」で よくまちをあるいた。「したぎ」というのは「テイシャツ」である(●ニジュウヨン)。ウンドウをしていたせいもあってよくきていた。フツウのシャツにあこがれたが、なかなかたかくてかえなかつた。たしかに ガクセイヨウや ロウドウシャヨウのシャツは やすくうられていたが、「ガクセイ」でも「ロウドウシャ」でもなかつたのでかわなかつた。オウシユウセイのは ニマンはした。だから、「したぎ」をかってしまう。

いまでも「したぎ」であるいているひとがいる。「イシヨク たつて エイジヨク をしる。」という。「イシヨク」とは きるものと たべるものである。「エイジヨク」とは メイヨとはじである。それがいうには、「イシヨク」がたりないうちは「はずかしい」とはおもわない。つまり、「したぎ」でセイカツしているうちは、「したぎ」すがたで まちをあるくことは「はじ」と おもわないのである。だから、「イシヨク」をたりるようにしたほうが「はじ」をしるようになるが、まだ「イシヨク」はたりていないのであろう。

ジーンズもよくないといわれたことがある。サギヨウギだから レイをかくというリユウだ。だが、わたしがわかったころの わかものは こぞつてジーンズをかっていたきがする。しかし、そういうわかものの タイコウブンカは サイキンかげをひそめたようにもみえる。わたしもジーンズは はかなくなった。

ナナジュウシチ

ふゆのあいだに、ニラがかれてしまった（●ニジュウニ）。そのまえに たねを  
つけていたので、まあ ダイがわりなのだろうとおもった。そして、いまごろに  
なつて めがはえてきた。しかし、ベツのところにはえている ニラをみると、そ  
のニラは ふゆをこして あおあおとしている。シヨクブツのツゴウなんだろうが、  
それなりにちがいはあるものである。ダイがわりしたニラは おやじがうえたら  
しい。イツポウ、ふゆをこしたニラはわからない。ひよつとしたら ヤセイのニ  
ラかもしれない。これは カセツであるが、ヤセイのニラのホウが つよいといえ  
るのではないだろうか。しかし、なにかがちがうのかもしれない。

ナナジュウハチ

おおきなジシンがあつてから ゴネンになる。あのジシンはおおきかつた。シ

ンゲンにちかいハウではそのあとのつなみがきつかったのだろうけど。あのあとすぐにコンビニにいったら、シヨウヒンがサンランしていた。だが、しなぎれはなかった。ところが つぎのひに いったみると、パンなどが しなぎれしていた。やっぱり あるかもしれない つぎのジシンに そなえて かうのだろう。あれイライ、もちだしヨウバッグをつくって、みずや ショクリヨウなどをいれている。やっぱり むずかしいのは みずだろうか。ひとりイチニチニリットルのんだら もちだしヨウのものはすぐに からになってしまう。だから、そとにみずをためておく はこをもうけた。

ナナジユウキユウ

「ヘイワ」というのは、ちいさくはあったかもしれないが、おおきくはなかったかもしれない。いまでも、どこかとどこかが どこかであらそっている。ニン

ゲンがセンソウジョウタイをキソにしているとすれば、ヘイワはニンゲンがシンカしないとタツセイできない。つまり、あたらしいノウ（あたま「●『ア』ヒャクサンジュウハチ、ヒャクキュウジュウハチ」）をハツタツさせなければヘイワはタツセイできないだろう。そのあたらしいノウをハツタツさせたひとがふえていくと、だんだんヘイワになっていく。でも、その「ヘイワ」はシンカのケツカタツセイされるあたらしいものだから、ジュウライの「ヘイワ」とよべるかはギモンだ。まあ、かりに「あたらしいヘイワ」にしとくか。

ハチジュウ

むかしはハダシはニホンジンのセイソウであったという（やなぎだくにおシ）。それが、タビをはいたり、ゲタをはくようになったという。そもそもしごとがこめさくやなんだで、はきものというのがあわなかつたのだとおもう。



イツカイイツカイはきものをあらうようじゃたいへんだ。ところが、メイジにはいつてゲタがフキユウしたという。それをはいていなさくはかんがえづら  
いから、トシのロウドウシヤなどがふえたのだろう。キソテキなサンギョウか  
らニジ、サンジサンギョウへとロウドウリヨクがイドウしたのだろうとおも  
う。「あしをあらう」というが、そのホウがロウドウとしてはまっとうであろう。  
しかし、「あしをよごさない」というリュウコウになったようだ。そういうオゴ  
リがのちのセンソウをひきよせたとかんがえるといまもまたかんがえない  
といけないとおもってしまふ。

ハチジユウイチ

むかしのいいブンカというかがうしなわれたりする。もつともソエンになっ  
ているからかもしれないが、わかいセダイにはそのよさがわからなかつたりす

る。コンカイのそのブンカというのはアンマだ。「シアツ」とか「マツサージ」とかよばれるあれだ。もっともわたしはいままでそういうみせにいったことがない。またわかいいころもからだのコリになやまされたこともない。あえていえば、フロヤのアンマキをつかつたくらいだ。いまのそれはニジユウエンテイドではうごかないとおもうが。

サイキン わたしはかぜをひいて せなかやこしが いたくなつた。まあリュウカン（インフルエンザ）ではなかつたらしいが、そのときはひさしぶりにつらかつた。アンマというのは してはいたが、ジブンに それをすることは メツタになかつた。だれかに やつてもらうものだ と コテイテキにおもつていた。しかし、なにげなく、 いたいところを ジブンで もんでみると アンガイキもちいい。そのゴ、アンマをおもいだしたのである。ジブンで アンマをすればいいのだ。そのためのドウグもある。いたくなつたら いたわって やろうとおもう。

## ハチジュウニ

そういえば、こどものころ ニジュウエンで ジョウゲにうごく のりものがあつた。さいきん そういうのをみないきがする。デパートの オクジョウとかにあつたとおもう。テレビゲームの ニンキからか そういうゲームにとつてかわられたのかもしれない。そういう ふるい、よいものがとつてかわられてしまうのは かなしい。たしかに わたしも テレビゲームを よくしていた。ゲームやにいつて やつてもいた。いまかんがえると ばからしいとも おもふのだが やつていた。あれは ソウサできる ドラマとでもいおうか、ソウサする なにかを のぞましい ホウコウに むけていく という あそびだ。それなら、ラジコン（うごくくるまの モケイ）をやつたホウが おもしろいとおもふのだが、まあ、よくやつていた。タブン、テレビゲームは、そのバメンというか カンキヨウを かえながらソウサできるので リョコウみたいで おもしろいのだろう。

## ハチジュウサン

はる。そういえば、そういうひだつたとあるホウソウキヨクのジンジイドウをみる。さくらもさいたといううわさばなしをきく。ニラが、めをだしはじめていたので、まあはるかとおもっていた（●ニジュウニ、ナナジュウシチ）。それからトオカほどたつて、ジャガイモが、はえはじめたのをみつけた。ニラもはなをさかせている。ここサンネンのあいだ、ほとんどてをつけなかったので、ねづいたのかもしれない。すこしずつはえるリヨウイキがふえてきた。まあ、いわゆるザツソウよりは、ましだとおもう。ジャガイモのうえこみをした。ジャガイモは、シヨウリヨウながらも、おとし、キヨネンととれている。だから、わりと、きがるにうえられる。ことしは、なえものにも、チヨウセンしようかとおもうが。

## ハチジュウヨン

なぜセイヨウの コテンオンガクで うたうカシユはそのからだに ニクをたくわえているか。ちよつとまえに きづいたのだが、それは ナイゾウからこえをだすからであろう。あるカシユのうたをきいていたら ナイゾウからのおとと いうのをかんじた。よく、「はらからこえをだせ」といわれるが、そのはらがおおきいほど オンリョウがでるのであろう。

## ハチジュウゴ

ジュウネン、ニジュウネンまえは、くるまのステレオソウチで オンガクをならして、テイオンのバスドラムのおとを まわりに ひびかせていたひとが イツ テイスウいた。イチニチ あるけば ニ、サンダイ そういうくるまに であつたと

おもう。しかし、サイキンはそういうくるまにであわない。フケイキだからであらうか。もつともシイデイもうれなくなつたというし。たしかにおおものカシユのシイデイもちかくのみせでおかなくなつたりしている。あるのはやりもののシイデイだ。

イッタイシイデイをかう コウバイリヨクはいまなににばけているのだらうか。ヤチンやこどものキョウイクヒにばけているならまあまっとうだ。サイキンのわかものはくるまをかわないというから、それで、そういうおとをならすくるまがへっているわけだ。

ハチジユウロク

「バドミントン」というキョウギがある。わかいときはきにならなかつたが、「バド」とはシヨクブツのわかいめだらう。「ミントン」とはなにかとかが

える。「ミント（ハツカ）」ではないか。ようするにハツカのなえをうちあつていたのでは、とおもう。それがあぶらからできた「なえ」もどきをうつようになつたと。ちよつとハツカがかわいそうなきがするが、そんなところではないか。

ハチジュウシチ

シイデイもうれなくなつたが、ホンもうれなくなつたという。それもまあわかるきがする。ホンやのかずがへつたからだ。わかいころに、まちにあつたふるホンやはそのホンのテイカのハンガクぐらいでうつていたが、（セイレキ）ニセンネンごろに、かずをふやしたふるホンやは、テイカにかかわらず、ヒヤクエンとかで、ホンをうつていたりした。いまでもそうなのだが、ヒヤクエンだとたとえば、センゴヒヤクエンのホンをかうかわりに、ジュウゴサツホンがかえてしまふ。なぜ、あるふるホンがヒヤクエンで、ほかのふるホンがヒヤクエンじゃ

ないのかはよくわからないが、シジョウのゲンリなのだろう。でもそのおかげで、わたしはヒヤクサツちかくおおく、ホンをよめただろうか。ふつうにかうとジュウゴマンエンなり。ふつうのふるホンやでも、ナナマンエンなりである。まあそのブン、シイデイを、そのみせにうったりしたが（ゴジュウまいはだしたであらうか）、それもテイカでかんがえるとジュウゴマンエンなりである。で、そのシイデイをゴヒヤクエンくらいで、うっているのだから、まあそういうのをかえば、たしかにシンピンのシイデイやホンがうれなくなるのであらう。

オンラインのホンやのソンザイもおおきい。いろいろなホンのなかから、ジョウケンをシテイしてケンサクして、ほしいホンをみつけられる。ホンやでホンをさがすよりは、やいかもしれない。そのケンサクをすると、すきなチョシヤがむかしだしたホンや（でていたにもかかわらず）ソンザイをしらなかつたホンに、であえるから、ベンリだ。

ところで、シイデイのヒョウシをみて、シイデイをえらんでかうことをジャ



ケットがいというが、シイデイのばあい それで このみのものに あたることは  
ケツコウある。ただ、ホンのばあいは ジャケットがいをやったことがない。だ  
いたい ホンやでは ためしよみができるからだ。しかし、そういうことができる  
ホンやそのものが すぐなくなつた。わたしのいえのちかくでも、イッケンでき  
て、ニケンヘイテンした。シイデイやも サンケンできて ロツケンヘイテンした。  
おおてのシイデイやばかりになつた。そういうところだと、コセイテキなシイデ  
イはあつかわないので、あまりおもしろみがない。まだイッケン、コセイテキな  
シイデイをあつかうみせがあるからいいが。でもオンラインでかうことがふえ  
た。ヨウガクのばあいだと カシのホンヤクがついただけで チョクユニウもの  
よりセンエンたかくなる。それはちよつとバカバカしい。エイゴがよめれば、ニ  
ホンバンよりヨンジュッパ―セントやすく たのしめるのである。それならと エ  
イゴをベンキョウするリユウがある。

ビーダマをなにかのまわりで シュウカイ（まわる）させようとする、タイヘンなエネルギーがヒツヨウであろう。デンキでうごくまをつけて まわすではないけない。そのものをまわすのだ。チエシヤならもつといいアンをかんがえるかもしれないが、タブン センタクキのようなところにいれてしまえば、まわりつづけることができるだろう。それだって ケツコウな エネルギーだが。つまり、あるクウイキが まわっているというかんがえかたをすれば、チキュウのコウテン（レヴオリューション）をセツメイできる（チキュウが「まわっている」のではなくて、クウイキが「まわる」とかんがえる。これが わたしのゼンチョ『アルクカラ カンガエル』でとなえたクウカイロンである。ダイニテンドウセツといえるかもしれない。●『ア』ヒヤクログジュウサン）。このばあい、「センタクキのカイテンリョク」、もつといえば、「モーターのカイテンリョク」がわ

たしのいう「うずまきリヨク」である。チドウセツ（ビーダマはうごく）、テンドウセツ（クウイキがうごく）でもある。

チキユウがコウテンするのはセツメイできるが、「うずまきリヨク」とはなにかというのがまだセツメイできていない。タイヨウがそれほどのエネルギーをもつのかというのは、ビーダマをまわすジツケンをすればわかるが、ソウトウなエネルギーだとおもう。

## ハチジュウキユウ

いすのせもたれはありがたい。トクにこしがいたかつたりすると。いたくなくともよりかかればラクである。だれがせもたれをつけたのかはわからな  
いが、あるカテイ（ソウテイ）からいうと、ごくまっとうである。それは、ニン  
ゲンはまえにむかっていきをはき、はらでわらうからだ。もし、ニンゲンがコ

ウトウブでいきをはき、せなかでわらっていたら、タブン まえがわに つまりはらもたれになったはずである。まえにいきをはけば、ハンドウでうしろにジユウシンがうごく。だから、くちのハンタイがわに「もたれ」がつくはずなのだ（ジツサイに そうなっている）。はらもたれがついている いすというのは、みかけないから、むかしのひとも くちはまえにあり、はらでわらっていたということだ。すくなくとも「せもたれつきの いす」ができてから ニンゲンはそうかわっていないはずだ。

キユウジユウ

「シャカイテキ」な「クウカン」というのをかんがえる。もし、だれかが「はしら」だとすると、サイテイサンニンの「はしら」があれば、「シャカイクウカン（シャカイカンケイクウカン）」ができる。うえにやねをつければ「いえ」に

なるということだ。もし、「グローバルカ」がホントウだとすると、うみをこえていえができていることになる（いえのなかにうみのイチブがある）。それをタッセイしようとおもったら、「はしら」のキョウドがヒツヨウだし、ソウトウなたかさもなければできない（チキュウのハンタイガワならフカノウだ。）。やねのシザイもヒツヨウだから、むずかしいコウジといわざるをえない。

そういうカテイからいうと、グローバルカは（おなじキジュン「このレイのばあい（カクン）とでもいおうか」でセイカツするのは）コンナンといえるのではないだろうか。つまり、おたがいにはなしあえはするけど、おなじホウリツ、シホウなどをテキヨウするのはむずかしいと。

キュウジユウイチ

わたしがこどもだったころは、あまり「オレンジジュース」にめぐりあわなか

った。かわりにあったのが、「オレンジフウ」インリヨウと、イチワリとかニワリとかの「オレンジ」セイブンがふくまれたインリヨウだ。サイキンは、ほんものの「オレンジジュース」がふえて、そういう「オレンジフウ」インリヨウのホウがみられなくなった。それだけ「ゆたか」になったのであろうが、そういうクフウのあじもいとおもう。

## キュウジユウニ

ニホンジンは、くじらもたべるが、うまもたべる。むかしチュウゴクで、シンのオウ（セイカクにいうとそうでない）がとなりのくにのグンにかこまれた。そこで、シンのショウグンがヘイに よいうまを ころして たべさせた。それではからをつけたヘイが、オウのキュウエンにかけつけ、オウをたすけたという。たすけられたオウも、よいうまをうしなったが、それをつみにせず、かえってそ

これらのヘイに さけをあたえたという。つみにとうほどの ジュウヨウなシゲンだったがである。だから、うまをくうニホンジンはソウトウなしごとができなくてはならない。

### キユウジユウサン

タイワンのトウブに、ダイリセキをサンシュツするチイキがある。イゼンにわたしがおとずれたときに、ダイリセキでできたさいころをかつた。ベツにセンソウのあいずではないが、あそびによくつかつていたから おもしろいとおもつた。また、ベツのときには ダイリセキでできた「たまご（モゾウヒン）」をもらった。そのときは なんなのかきにしなかつたが、このまえ そのイミをしつた。それは、（むかしのチュウゴクの）シンのくいのシソ（シコウテイではない。そのソセン）があるとき とりのたまごがそらから おちてくるのをみて、そ

のたまごをつかまえてのみこんだ。そのご、そのジョセイはこをうんだというセツからきているのだとおもう。そのたまごをのんだジョセイからナンジュウダイとつづき、やがてチュウゴクをトウイツしたシンというテイコクができる。つまりハンエイのしるしなのだ、とおもう。まあ、そういうしるしがあつたからかアンガイしごとがはかどっている。

## キュウジュウヨン

よく「セイジ」とか「セイジカ」とかいう。なぜそういうかはレキシ（もしくはカコのジンブツ）からきている。（チュウゴクの）シンのくにのオウジセイはシンのくにをつぎ、やがてチュウゴクのほかのくにすべてをほろぼし、コウテイとなのにいたった。デントウテキナオウコクは、シンカのものにリョウドのイチブをあたえるが、シンではグンケンセイをとっていた（コウムイ



ンがチホウをおさめる)。また、ホウ（リツ）によるトウチもおこなっていた。このシンテイコクは、ほろぼされたオウコクがハンランをおこしたり、イヤク（くすり）やノウギョウなどのシヨモツをのぞいたほかのシヨモツをやきはらったり、シンカのものがにげだしたりするようなキュウクツなテイコクであったが、ジュウリヨウやはかりのタンイをそろえたり、モジをトウイツしたりとそれなりのケツカをのこしている。そういうシンのシコウテイ「セイ」のなまえをとって、セイヂ（セイのチ「トウチ」）というのだろう。ヨウするに、いまでもくにのウンエイのてほんになつてゐるわけである。

たとえば、グンケンセイやホウチシユギである。だから、チュウゴクとちがうことをしたければ、「セイジ」ではなくて「ムジ（つとめる、おさめる）」としたり、「セイフ」ではなくて「ムフ」とかにすればよい。「セイジ」や「セイフ」はそういういわれがあるゆえに、バツポンカイカクはむずかしいだろう。

キュウジユウゴ

シンのくには、オウ（オウといったのは、シコウテイがうまれるまえにはじめられたからである。）がしんだときに、シンカのものやへいをジュンシ（おつてしなせる）させたようである。シコウテイのときもやまをほつてつくつたスイギンのかわやうみをそなえたはかにしてそれらをつくつたシヨクニンをくちふうじのためにおきざりにしてやまのヒヨウメンをかためたという。ニホンでもはにわなどがコフンなどからみつかつているが、それは「ジュンシ」のかわりなのだろう。

キュウジユウロク

（バンリの）チヨウジヨウもシコウテイのジダイにつくられたものである。

いまだにのこっているときく。ヘイワになってしまえば、そういうものはヒツ  
ヨウないかもしれない。ムダとおもってしまったりする。しかしよくかんがえ  
てみればカンコウシゲンになるとおもう。「ヨジョウ」というのはカンコウシ  
ゲンになるのだらう。

キユウジユウシチ

「みの（フクのうえにきる）」がメイジになって「ジダイおくれ」になった  
とやなぎだくにおシ『メイジタイショウシ』はいう。わたしはそれがなん  
だかわかるが、そういえばジツブツをみたことがない。せいぜい、えでみたくら  
いだ。「あめはななめにふる」にもかかわらず、「かさ」がフキユウしていった  
という。わたしがこどものころ、みのむしをみた。サイキンはまったくみない  
が、そういうリュウコウはむしにもあるのであるのか。そういえば、かたつむ

りもみない。ニンゲンが「みの」をきなくなつて、みのむしの「みの」がない  
ホンタイが「みの」をまとわなくなつたのではないか。また、ニンゲンが「よ  
ろい」をきなくなつて、かたつむりの「から」のないホンタイが「から」をま  
とわなくなつたのではないか。そういうむしのブンカ(といつてよいのか)が  
わつていつているのではないか。

キュウジュウハチ

「カクメイ」のことをレヴオリューションといたりする。たしかに「カク  
メイ」でジシヨをひくと「レヴオリューション」がでてくる。「カクメイ」と  
いわれると、「レヴオリューション」とヤクしてしまふさうだ。しかし、「レ  
ヴオリューション」というのは、チキュウのコウテンのことをさしたりもする。  
あのタイヨウのまわりをまわるといふのをさす。ほかに「ローテーション」と

いうことばもある。これは、ワクセイのジテンをさす。むかしはこれらふたつのことをシュチョウすると、いたいめにあったそうである。つまり、「レヴオリユーション」ととなえることは「カクメイテキ」であった。そこで、「レヴオリユーション」というゴに、「カクメイ」というイがついたのだろう。だから、「カクメイ」のことを「レヴオリユーション」とヤクさないホウがいいかもしれない。なぜなら「コウテン」のことだからだ（「もうわかっている。」といわれるだろう。）。

「コウテン」は「オールウェイス」だろうけど、「カクメイ」が「オールウェイス」ではこまるかもしれない。「セイタイ（セイジ）」があらたまることだからだ。ただ「カイテン」するということだから、いずれはもどるというかんがえかたもできるかもしれない。そういうかんがえかたをするから、「リュウコウ」や「ケイキ」のジュンカンセツがでてくるのかもしれない。それと「カクメイ」はベツものだろう。

キユウジユウキユウ

ジカンがたつとなにかをいいあらわすことばもかわってくる。わたしがこども  
のところ、ウンドウカイの オウエンダンなどで 「フレール」「フレール」「くぐみ」  
などといっていたが、きがついてみると、それはエイゴであった。「ケンカ」  
や「カクトウ」をあらわすという。だから、「たたかえくぐみ」というイミな  
のであろう。たしかにそんなかんじでいっていた。しかし、むかし（メイジの  
ころとか）は オウエンするにも そうはいわなかったであろう。もつとまえに  
なると、ホントのたたかいはなる。なんといいていたかはわからない（「きつて  
すてよ。くぐみ。」とかなんだろうか。サイキンだと「うて。うて。くぐみ。」に  
なるか）。

たしかに「トンカツ」をたべるなら、「ポークカットレット」などとエイゴ  
をつかうばめんもあるはずだ。でも、「きれ。きれ。くぐみ。」とかはエイゴを

つかわなくてもいえそうである。ブツソウだからエイゴをつかっているのだからか。

ヒヤク

きがついてみると、ちかごろ「き」のあじを あじわっていないきがする。おひつなどをつかわないからだろう。たしかに ベントウなどで わりばしがついていてそれをつかっていたことはあるが、はしをなめるのはブサホウだからあまりあじわえていない。きがつけば しゃもじも あぶらセイだったりする。まだカンゼンに うしなわれていないが、そういうサホウも ダイジにしたい。

むしのツゴウ ニンゲンのツゴウ ジョウカン

エイゾウ

ニセンジュウシチネンニガツココノカ

iii toga db002-s4



エイチテイテイピーコロンスラツシユスラツシユアイアイアイテイオージーエ  
ーピリオドシーオーエム

テイエスユーエスエイチアイエヌアットマークアイアイアイテイオージーエー  
ピリオドシーオーエム